

平成27年度 第3回学校協議会記録（HP用）

日時：平成28年 2月10日（水） 10時～12時
場所：校長室

○ 協 議

【1】 学校経営計画進捗状況について

- 1 特別支援教育のセンター的機能について 首席及び担当者より報告
 - ・ I I T E C (イーテック) (和泉インクルーシブ教育推進センター)
交流及び共同学習の取り組み
 - ・ 大阪府地域支援整備事業及び泉北ブロック活動報告
L S (リーディングスタッフ) による地域の学校園の支援内容
 - ・ I C T 教育推進部のタブレット端末の活用
小中学校支援学級担当者向け研修報告 (高石市、泉大津市、泉北支援研究会)
- 2 本年度の各部のキャリア教育の取り組みについて 各部主事より報告
- 3 学校教育自己診断の結果と分析及び学校の取り組みについて 首席より報告
- 4 安全安心な学校づくりの推進 教頭より報告

〈質問・意見等〉

- ・ 報告において今後の目標として、地域の教員の教育力をどう向上させるかということがあがっていたが、巡回相談に何度も行くことは重要なことであるけれども、地域の学校の教員が「こういった子どもたちにはこういった支援が必要である」と自分たちで対応できるようになっていくことが、教育力の向上だと思うが、それに対する支援をどうするかがテーマである。巡回相談をした効果をどう評価していくかも検討していってほしい。
- 今年度から、相談を受ける場合は、校内でどのように検討をし、指導したかを用紙に記入するようにした。また、各市町教育委員会を通して本校へ依頼する形にし、地域の学校で事例検討会を行う場合は、その周辺にある学校からも参加してもらい地域全体での相談にしていきたいと考えている。
- ・ 交流及び共同学習について、富秋中学校と非常に実のある交流をしていることは素晴らしいと思った。これをどう般化していくか、3市1町の学校全部は大変であると思うが、今後の方向性はどのように考えているのか。
→まだ取り組み始めて1年のところであり、交流及び共同学習を進めるにあたっての手順やマニュアル作り、校内システムの確立が必要である。富秋中学校においても、学校全体でどのような取り組みができるか等も課題である。両校のシステムを確立することが、今後様々な学校との取り組みに広げるための基礎となると考えている。
- ・ 大阪府地域支援整備事業の実績について、巡回相談26回、研修講師25回となっているが、成果についてどのように感じているのか、また回数が十分かどうか、スタッフの人数が十分かどうか等、どのように実感しているのか聞かせてほしい。
→同じ学校から同じような内容で何度も依頼がくるということは、非常に不効率であり、その学校の教育力が上がっているとは言い難いと思っている。その学校内

で十分検討し、力を上げていく意識を持ってもらうことが必要である。また、一つの学校に巡回する場合は周辺の学校の教員にも来てもらい相談を行う。拠点校を決めて、本校がスーパーバイズするようにすれば、地域内で相談ができるようになり、本校のスタッフももっと効率的に巡回相談に回れるのではないかと思う。→成果については、どういう基準で「成果があった」と考えるか、その判断は難しいと考えている。一つの基準として、子どもが地域の学校へ進学し、本校への入学者が減ることが成果として考えられるが、実際は増えており、成果としては上がっていないことになる。成果をどう実証するかが課題である。人員については、実際に巡回に出るのは2名だが、分掌としては14名(2名を含む)いる。巡回する人数が足りているかといえば、足りていないと考えている。

- ・キャリア教育小学部の取り組みの中で、地域へ出かけて交流をするようだが、近隣の池上曾根史跡公園や弥生文化博物館、池上小学校等へはどのような手段で行くのか。また、徒歩の場合、池上町内は道が狭く、26号線は車の交通量も多い。コースや道順はどのように決めているのか。教員の見守りの体制はどのようにしているのか。

→小学部は学年の人数が少なく、小さな集団であるので教員の見守りは十分行き届く。また、実施の前には下見を行い、危険箇所の把握、引率教員数や雨天時の対応等計画を立て、安全には注意するよう行っている。

- ・気がかりな点として、引率教員にまかせきりになっているのではないかということがある。学校責任者が時には同行し、現場を確認する必要があると思う。
- ・行方不明訓練について、7年前PTA総会時に実際子どもが校外へ出て行く事象が起こり、その年様々な課題があがった。その後、防止策の検討や対応マニュアルを作成する動きがあったが、今は保護者に対してどのように訓練し、対応するか等の周知はされていない。もっと保護者にアピールすることで、学校に対する信頼も高まり、協力も仰げると思う。また、地域との交流への取り組みとして、地元の支援学級に在籍する子どもたちに、PTAが行っている秋祭りへの参加を促すことを検討している。地域の学校から入学してくる保護者となかなか交流を図りづらい状況があるので、少しでも早い段階から交流を図るためにもPTAとして何か協力できないかと考えている。

○会長まとめ

学校経営においては、それぞれの分掌で精力的に取り組んでいる。今後、ますます支援学校の地域への貢献力が問われる時代になってくる。それがインクルーシブ教育システムというふうに位置づけられている。本校が進めているセンター的機能であったり、ICTを活用した教育のあり方であったり、交流及び共同学習の取り組みが、地域の教員からの大きなニーズになっていくと思われる。引き続き大変であるが、進めていってもらいたい。キャリア教育について、以前キャリアプランニングマトリックスについての報告を受けたが、今年度はそれを日々の授業に具体的にどう位置づけたかということだった。キャリアプランニングマトリックについては、全国に先駆けての取り組みである。それが具体的な指導の中に乗ってきていることは、素晴らしいことである。同時に学部間の連携を図ることも大切である。小学部での実践と中学部での実践のつなぎの部分がかげ離れているとあ

まり効果がでてこないと思うので、その点についても今後問われてくるのではないかという印象を持った。引き続き深めてもらいたい。

学校教育自己診断について、子どもたちの満足感高めることや困っている点へのアプローチを進めてもらいたい。

学校の安心・安全については、具体的な情報を保護者とどう共有するかが、重要である。情報共有のあり方、地域と学校との交流を、保護者同士、子ども同士で行うという課題への取り組みの一つとして、PTAが行っている秋祭り参加への呼びかけを地域の方に行うことはPTA活動の柱として大事なことである。同時に学校としても取り組む必要がある。また、地域子どもたちが出かけることについても、事前学習を強化し、安全に実施できるようさらに努めてもらいたい。